

広域災害救急医療情報システム（EMIS）使用訓練を行いました

災害時、さまざまな情報が錯綜する中で被災地の情報はとても重要なものとなります。

今回の訓練で行われた **EMIS** 実習は、災害時に救護班が「どこで・誰が・どのように・どんな状況の中で」という被災地の状況と被災地での救護活動の状況をシステム上で共有するというものです。

実習では、救護班がシステム（訓練用）を入力しながら、実際の災害時を想定しつつ、声かけや疑問点などを確認しあっていました。

全国で被災地の情報を共有し、連携を取り合うことは、ひとりでも多くのいのちを救うことにつながります。

災害時に備えた実習に、救護班員たちは真剣な面持ちでのぞんでいました。



訓練講師のレクチャーの下、EMIS 入力体験を行う救護班員